

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により生産活動や輸出の急激な落ち込み、個人消費の低迷などで景気は一時悪化いたしました。サプライチェーン（供給網）の急速な復旧により生産活動は正常化に近づきました。一方、電力不足問題、原油価格の高止まり、円高など依然として先行きは不透明感が強まっております。

このような情勢のもと、当社グループでは、顧客ニーズに合致した環境対応型の製品や価格競争力のある新製品の開発に取り組むとともに、徹底したコスト削減など収支改善に努めましたが、震災の影響によるカーメーカーの生産減少に伴う売上高の減少など、十分な成果には至りませんでした。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、64億7千万円（前年同期比17.5%減）となりました。

損益面につきましては、売上高の減少、原材料の高騰などにより2億4千8百万円の営業損失（前年同期は2億7千6百万円の営業利益）となりました。経常損益は6百万円の経常損失（前年同期は5億3千8百万円の経常利益）、四半期純利益は受取保険金の計上などにより1億1千2百万円（前年同期比84.7%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 塗料関連事業

当セグメントの業績につきましては、省エネ法ならびに節電対策を追い風に環境対応型塗料の売上拡大に注力しました。品種別売上高につきましては、建築・構築物用塗料のうち、屋根用塗料は前年同期比6.6%増加、床用塗料は前年同期比5.7%増加しました。一方、請負工事関連では、マンション等改修工事売上高は前年同期比△6.6%と減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は29億9千7百万円（前年同期比0.0%減）セグメント利益は5千1百万円（前年同期比19.6%増）となりました。

② 自動車製品関連事業

当セグメントの業績につきましては、東日本大震災によるサプライチェーンの寸断など国内カーメーカーの生産調整による需要の落ち込みにより売上高は大きく減少しました。

品種別売上高につきましては、防錆塗料は前年同期比△32.3%、制振材は前年同期比△34.1%、吸・遮音材は前年同期比△33.5%とそれぞれ減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は34億6千9百万円（前年同期比28.3%減）、セグメント損失は2億9千9百万円（前年同期は2億3千3百万円のセグメント利益）となりました。

③ その他

保険代理業の売上高は3百万円（前年同期比0.8%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ16億8千6百万円減少し、346億5千9百万円となりました。主な増減要因は、現金及び預金の減少11億5千5百万円、受取手形及び売掛金の減少5億5千9百万円の減少によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ16億1千1百万円減少し、166億7千万円となりました。主な増減要因は、支払手形及び買掛金の減少10億3千3百万円、借入金の減少1億2千万円、流動負債のその他の減少3億2千5百万円によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ7千5百万円減少し、179億8千8百万円となりました。主な増減要因は、その他有価証券評価差額金等、その他の包括利益累計額の減少6千万円によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2億4千7百万円であります。

(5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい増減はありません。

(7) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。